



1 はじめに

本校では、平成21～24年度に算数科を中心に研究を進めた。思考力や表現力の向上は見られたが、その一方で日々の生活の様々な場面において、「自分の思いを的確に表現する力」「相手の思いを感じる力」等の「表現力」「コミュニケーション能力」に関する課題が挙げられた。そこで平成25・26年度の研究主題を「他者意識をもって、自分の考えや思いを豊かに表現する児童の育成」と設定した。そして全職員での話し合いの場を設け、これらの課題を解決していくためには、望ましい集団活動を基盤とした特別活動を通して研究を進めることが最適であると考え、副題を「特別活動を通して」と設定した。また、本校は児童数1100人、教員数40人を越える大規模校である。ベテランの教員から若手の教員まで在籍している。特別活動に対する取組もそれぞれである。そのような実態の中で、どの学級においても同じように目指す児童を育成するために、一人が百歩進むのではなく、みんなで一歩でも前進できるように研究を進めることに留意した。

2 主な取組

(1) 基本を大切にしたい研究の構想

研究の仮説を設定する際に重視したのは「望ましい集団活動」「計画委員会」「話し合う場」の3つである。どれも特別活動において基本的な事柄であるが、その基本を大切に扱うという意味を込めて仮説を設定した。また、具体的な手立てとしては【目標を達成するためのサイクル】【よりよいコミュニケーション能力を伸長するためのサイ

クル】【必要感のある議題】【スムーズな司会進行】【事前に自分の考えをもたせる】【話し合いのスキルの習得】等をキーワードにして設定した。

(2) 時間の確保

特別活動を通して研究を進めるに当たり重視したのが学級会である。学級会を形式的なもので終わらせることなく、意味あるものとするために計画委員会の活動を大切にしたい。その時間の確保のために毎週木曜日の1:10～1:45までを「みんなの時間」として、計画委員会をはじめ、特別活動にかかわりのある活動の充実のための時間とした。教師も計画委員会に参加することができ、議題選定、話し合いの進め方等の活動の充実につながった。

(3) 児童にも開かれた学級会

教科書のない学級会において、児童のモデルとなるのが自分より上の学年の話し合う活動だと考えた。そこで、児童が上の学年の学級会を見学する機会をつくった。また、他学年との合同学級会も行った。自分の目でモデルとなる学級会に参加し、見学することで、目標を見据えてその後の学級会に取り組めるようになった。

3 おわりに

今回の研究における構想や様々な取組は先進的なものではなく、どれも当たり前な事柄である。しかし、当たり前として見過ごすのではなく、当たり前だからこそ大切にしたい。当たり前だからこそみんなで取り組む。そして教師も児童も前進できると考える。今後もみんなの歩を大切にしたい研究を進めていきたい。